

「研究大学強化促進事業」令和元年度フォローアップ結果

| | |
|------------------|--|
| 機 関 名 | 令和元年度フォローアップ結果 |
| 広 島 大 学 | <p>○広島大学の強化方針の 5 項目は、いずれも我が国の大学の抱えている問題であり、その解決に向かって大学の強い意気込みを感じる。特に強化方針 3「若手研究者等イノベーション研究人材の育成」については、FD の開催、国際公募、新たなテニュアトラック制度など、総合的に対策が立てられていることは評価される。</p> <p>○2020 年 5 月、広島県で開催される URA の国際会議「INORMS2020」は、我が国の URA 制度の将来の発展において大きな力となると考えられ、広島大学がこのような国際会議を誘致したことは高く評価される。</p> <p>○世界ランキングトップ 100 を目指すにあたっては、SCI 論文数などの質的指標の一層の向上に期待したい。</p> |

※「INORMS2020」は 2021 年 5 月 24～27 日に延期が発表されました。(2020 年 3 月 13 日)

平成 30 年度フォローアップ結果への対応状況と今後の事業展開について

| | | | | | |
|-------|------|-------|-------|--------|--------------|
| 機関名 | 広島大学 | | | | |
| 統括責任者 | 役職 | 学長 | 実施責任者 | 部署名・役職 | 理事・副学長（研究担当） |
| | 氏名 | 越智 光夫 | | 氏名 | 楯 真一 |

平成 30 年度フォローアップ結果

- 貴学の優れた IR 実績をさらに発展させ、確実な将来ビジョンを立ち上げている。特に、人事制度の見直し、個人評価制度などの意欲的な取り組みは高く評価できる。
- 研究力強化の取組みの最初に、研究時間の確保を挙げており、現在の大学の実情を考えると重要な課題であることから、URA の活動に期待したい。
- 若手教員比率については減少傾向となっている。人事制度の一元化の利点を活かすなどの対応の一層の強化が望まれる。

将来構想の達成に向けた現状分析

将来構想 1

【広島大学の新長期ビジョン「SPLENDOR PLAN2017」に掲げた『持続可能な発展を導く科学』を实践する世界的な教育研究拠点へと発展】

① 平成 30 年度フォローアップ結果等コメントへの対応状況

引き続き、本学独自の指標である AKPI®、BKPI®のモニタリングや IR 分析を通じて強い研究分野を明らかにし、世界的な教育研究拠点の構築と教員人事の全学一元化による戦略的な人員配置を進める。

あわせて、優秀な若手研究者・女性研究者・外国人研究者が活躍できる魅力的な教育研究環境を整備するため学内にWGを設置し、若手研究者の研究スタート支援の一環とした全学共用機器等のマネジメント体制の検討や、教員の研究スペース、研究時間及び研究費に関する制度面からの検討を行う。

URA 活動においては、引き続き科研費及び大型プロジェクトなどの外部資金に係る申請・獲得支援を行い、若手教員の異分野融合研究の仕組み作りや国際研究ネットワーク構築支援など、研究時間確保を含めた研究力強化に資する取り組みを実施する。

特に、若手研究者を含む研究人材の確保については、全学で採用枠拡大の明確かつ戦略的な措置方針を定めるとともに、その措置方針に基づき各部署・分野毎に早急に到達目標に向けた人員配置計画を定めるなど、若手教員比率の向上に繋げる。

② 現状の分析と取組への反映状況

将来構想においては、本ビジョンやこれまでの研究力強化の取組状況等を踏まえ、以下5つの強化方針を掲げ、更なる研究力強化に向けて実効性のある取組を継続的に実施することとしている。

広島大学の
新長期ビジョン
「SPLENDOR PLAN2017」
に掲げた『持続可能な発展を
導く科学』を实践する世界的
な教育研究拠点へと発展

1 強化方針01：高度なIR機能の活用と優れたURAの育成

2 強化方針02：国際的学際・融合拠点への進化

3 強化方針03：若手研究者等イノベーション研究人材の育成

4 強化方針04：国際共同研究を加速させるネットワークの拡充

5 強化方針05：グローバルな協働を基盤とした社会連携の推進

【(強化方針 02-1) 世界的研究拠点の継続的創出 - 指標④科研費採択率】

以上の強化方針を踏まえ、更に本事業において、時限付き研究拠点を継続して創出しており、SCI 論文の増加や外部資金の獲得につながっているが、2018 年度の科研費の採択率については 2017 年度実績に比べ減少となった。科研費の採択率向上のため、URA による科研費チェックや相談受付、科研費申請支援に取り組んでいるが、さらにきめ細かに支援するため、新たに英語による外国人研究者向けの勉強会や、より上位の研究種目獲得を目指すためのセミナーを実施する。また、科研費以外の外部資金についても、URA による情報収集や申請書作成支援に加え、収集した情報を分析しポイントをわかりやすく解説するセミナーを開催する。寄附金の獲得については、URA や担当部門においてクラウドファンディングの検討を行ってきた。2019 年度は URA がもつ研究シーズをベースにクラウドファンディングの新規募集を開始する。

【(強化方針 03-1) 若手研究者が研究に専念できる環境の構築 - 指標⑫若手教員比率】

2018 年度は若手教員比率が減少となったことから、引き続き若手教員の採用枠を優先して確保するとともに、2019 年度から新たな制度として、最大 3 年間の雇用とする育成助教制度を開始し、将来につながる様々な教育研究経験を積み、次世代を担う研究者として活躍する若手教員を育成する。また、若手研究者を育成するため、FD 研修の見直しを行い充実させるとともに、FD 研修に連動した独自の学内研究費支援制度の検討を進める。さらに、若手研究者の自立的な研究環境の整備の一環として、学際・融合領域研究の創出を目指し研究者に交流の場を提供し学術的研究を創出することとして、良縁創出プロジェクト「広大 100 人論文」を実施するなど、総合研究大学の強みを活かす。

若手教員を含め教員の採用にあたっては国際公募を必須としており、外国人教員等の受け入れ環境の整備も重要である。そのため、新たに外国人教員等の受け入れ環境整備ワーキングを立ち上げ、研究環境のみならず住環境まで含めたサポート体制を整備する。

【(強化方針 05) グローバルな協働を基盤とした社会連携の推進】

グローバルな協働を基盤とした社会連携の推進のため、URA と産学連携部門が連携し、互いが持つ研究シーズ・ニーズの共有や新たなプロジェクトの立ち上げに取り組む。プロジェクトの推進にあたっては、URA と産学連携コーディネーター等の専門人材がハブとなり、さらなる国際・地域社会との連携強化を図り、外部資金獲得と SCI 論文や国際共著論文の増加につなげる。このため、2019 年度に URA が所属する学術研究部門と産学連携部門を統合し新たな組織を立ち上げ、URA と産学連携コーディネーター等の共働による基礎研究から産学連携、技術移転まで一貫した研究マネジメント体制を構築する。

ロジックツリー・ロードマップの利活用・横展開状況

ロジックツリー・ロードマップについては、学長、役員、全研究科長等で構成する研究推進機構会議において、アウトカムと成果目標の確認及びロードマップに係る認識の共有を行っている。また、研究科長は各研究科に持ち帰り、教職員に情報共有を行っている。

ロジックツリーで設定した指標は、研究担当理事及び担当 URA が各研究科を個別に回り説明を行った上で、研究科長等と目標の共有及び指標達成のための取り組みについて議論を行っている。

URA 部門においては定期的に URA ミーティングを開催しており、ロジックツリーと各 URA の業務との関連を整理し業務の重要度や優先度を定めるツールとして活用し、成果目標達成のための取り組みを進めている。なお、この URA ミーティングには事務職員も参加し意見交換と情報共有を行っている。

特筆すべき事項（定性的な現状・取組状況等）

広島大学では、URA と事務職員が同じ部門に所属しており、教育研究に関する知識・経験を持つ URA と、大学運営や事務手続きに強みを持つ事務職員が互いに協力しあう環境を整えている。

研究に関する業務は、国際関係、広報関係、図書館、社会・産学連携、知財部門など、様々な業務組織に関係することから、URA が各業務組織と共働し、大学全体の課題解決に取り組んでいる。

特に、研究シーズの発掘や研究情報の収集・分析に関しては、URA が中心となるべき業務であり、社会・産学連携部門が持つ企業・地域のニーズとのマッチングや橋渡し、研究成果の国際的広報活動、収集した外部資金情報の分析とマッチする研究者への情報提供などの活動を行っている。

これらの URA 活動は全学に認知され、外部資金の獲得や研究拠点・ネットワーク形成に確実に繋がっている。支援を受けた研究者個人からも、外部資金の獲得に繋がった、URA により新たな研究テーマによる展開がはかられ研究者コミュニティへの参画・拡大に繋がった、などの声が届いており、URA は大学及び研究者にとってなくてはならない存在になりつつある。

【参考】論文の質に係る指標について

| | Scopus | | WoS | |
|-----------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 2013-2017 平均 | 2014-2018 平均 | 2013-2017 平均 | 2014-2018 平均 |
| 国際共著論文率 | % | % | 28.9% | 30.7% |
| 産学共著論文率 | % | % | 3.2% | 3.2% |
| Top10%論文率 | % | % | 9.5% | 8.9% |

広島大学「研究大学強化促進事業」ロジックツリー【概要版】

将来構想

事業終了までのアウトカム
(2021年度-2022年度)

中間的なアウトカム
(2019年度-2020年度)

アウトプット
(2019年度の取組)

アウトプット
(2018年度の取組)

広島大学の新長期ビジョン「SPLENDOR PLAN2017」に掲げた『持続可能な発展を導く科学』を実践する世界的な教育研究拠点へと発展

指標 I
世界大学ランキングトップ100の総合研究大学に躍進

(強化方針02) 国際的学際・融合拠点への進化

| | |
|-------|---------------------------|
| 指標(1) | 教員一人当たりSCI論文数 |
| 指標(2) | 国際共著論文比率 |
| 指標(3) | 企業との共同・受託研究件数(受入額500万円以上) |

(強化方針01) 高度なIR機能の活用と優れたURAの育成

| | |
|-----|----------------|
| 指標① | 最先端国際プロジェクトの構築 |
| 指標② | URAI人事制度の確立 |

(強化方針02-1) 世界的研究拠点の継続的創出

| | |
|-----|---------------------------------|
| 指標③ | 自立型拠点・インキュベーション拠点を継続的に20拠点以上を維持 |
| 指標④ | 科研費採択率 |

(強化方針04) 国際共同研究を加速させるネットワークの拡充

| | |
|-----|----------------------|
| 指標⑤ | 海外大学等との包括協定累計件数 |
| 指標⑥ | FE・SDGsに資する教育研究計画を策定 |

(強化方針04-1) 国際的な存在感の向上

| | |
|-----|-----------------|
| 指標⑦ | ライティングセンターの利用者数 |
| 指標⑧ | INORMS2020の開催 |

(強化方針03) 若手研究者等イノベーション研究人材の育成

| | |
|-------|----------|
| 指標(4) | 若手教員比率 |
| 指標(5) | 女性教員比率 |
| 指標(6) | 外国人教員等比率 |

(強化方針05) グローバルな協働を基盤とした社会連携の推進

| | |
|-----|---------------------|
| 指標⑨ | 学術研究と産学連携が協創する組織の設置 |
| 指標⑩ | オープンイノベーション機構の整備 |
| 指標⑪ | 共同研究講座・共同研究部門数 |

(強化方針03-1) 若手研究者が研究に専念できる環境の構築

| | |
|-----|----------|
| 指標⑫ | 若手教員比率 |
| 指標⑬ | 女性教員比率 |
| 指標⑭ | 外国人教員等比率 |

- AKPI®とBKPI®によるパフォーマンスのモニタリングによるIR機能の活用
- URAIによる国際外部資金獲得支援のための国内外URAネットワークへの参加と構築
- URAの能力向上のためのトレーニングやブレインストーミングの実施
- 研究推進機構会議、研究企画会議等にURAIも参加し本事業に係る重点事項を審議・検討
- IRデータを蓄積する教育研究情報収集システム(DWH)と剽窃防止ソフトの運用
- 国際共同研究プロジェクトや国際共同セミナーを開催し国際研究ネットワークを構築
- 拠点の中核を担う国内外トップ研究者の継続雇用
- 世界トップ研究者を招聘した「広島大学知のフォーラム」やワークショップ等を開催
- 各研究科に設置した研究推進委員会が自発的に研究力強化に取り組めるようURAIが全学の方針やベストプラクティスの共有を行うなどの支援を実施
- URAIによる科研費チェック及び相談受付など科研費申請支援のほか、英語による外国人研究者向けの勉強会や、より上位の研究種目獲得を目指すためのセミナーを実施
- 自立型拠点・インキュベーション拠点を創出・維持するためURAIによる大型外部資金獲得のための情報収集並びに情報共有を行い、ポイントをわかりやすく解説するセミナー開催及び申請書作成支援を実施
- 国際科学広報フェロー(教育研究補助職員)やURAIによる国際科学広報サイトの運営やFacebook、EurekAlert!、AlphaGalileoを用いた研究成果の海外発信を行うなど国際広報体制の強化を実施
- 広島市と広島観光コンベンションビューローとの三者間協定締結や東広島市との連携による国際会議開催をURAIが支援
- 国際研究拠点として広島大学FE・SDGsネットワーク拠点をURAIが運営支援し、様々なステークホルダーが参加する国際シンポジウムを開催
- ライティングセンターにおいてライティングセミナーや英語論文執筆授業等を開催
- ライティングアドバイザーフェローによる英語論文執筆支援
- 英語論文校正費の助成
- INORMS2020(2020年に広島で開催されるリサーチ・アドミニストレーター団体の世界大会)の開催準備と世界各国へのアウトリーチ活動を展開
- クラウドファンディングによる外部資金獲得を検討し、新規募集を開始
- 海外の外部資金獲得のため海外大学とのコネクション強化及び海外動向の把握
- 企業との新たなプロジェクトの立ち上げや推進をURAIが発案・支援するなど、国内外の企業との組織レベルでの連携を本学産学連携部門と連携して推進する
- 産業界・地域自治体と連携した新規プロジェクトの創出するとともに、東広島市と新たな魅力的な都市づくりプロジェクト(DESIGN-I)を開始
- URAIにより国内外の企業の探索とコネクション作りを行い、URAIが把握する大学の研究シーズと探索した企業のニーズをマッチングすることで、産業界への橋渡しと外部資金獲得につなげる
- 若手教員、女性教員、外国人教員の採用枠を優先確保し、人員配置にはAKPI®・BKPI®等の指標を活用
- 若手研究者が活躍できる全学統一の新たなテニュアトラック制度と育成助教(最大3年間の雇用)制度を開始
- 若手研究者育成のためのFD研修の充実とFD研修に連動した研究費支援制度の検討
- 若手研究者が利用しやすい研究設備の共同利用体制の構築
- 一部の若手研究者にメンターを配置するとともに全学的メンター制度の導入を検討
- 新任教員を対象とした研修プログラムを実施し若手研究者を育成
- 女性研究者の上位職への登用促進及び継続的に活躍できる環境の整備
- 若手研究者の意見を取り組みに反映させるため個別ヒアリングや若手ランチ会を実施
- 研究者に交流の場を提供し学術的研究を創出する良縁創出プロジェクト「広大100人論文」を実施
- 外国人教員等の受け入れ環境整備ワーキングを立ち上げ、研究環境のみならず住環境までサポートできる体制を検討

- AKPI®とBKPI®によるパフォーマンスのモニタリングによるIR機能の活用
- URAIによる国際外部資金獲得支援のための国内外URAネットワークへの参加と構築
- URAの能力向上のためのトレーニングやブレインストーミングの実施
- 研究推進機構会議、研究企画会議等にURAIも参加し本事業に係る重点事項を審議・検討
- IRデータを蓄積する教育研究情報収集システム(DWH)と剽窃防止ソフトの運用
- 国際共同研究プロジェクトや国際共同セミナーを開催し国際研究ネットワークを構築
- 拠点の中核を担う国内外トップ研究者の継続雇用
- 世界トップ研究者を招聘した「広島大学知のフォーラム」やワークショップ等を開催
- 各研究科に設置した研究推進委員会が自発的に研究力強化に取り組めるようURAIが全学の方針やベストプラクティスの共有を行うなどの支援を実施
- URAIによる科研費チェックや相談受付など、科研費申請支援を実施
- 自立型拠点・インキュベーション拠点を創出・維持するためURAIによる大型外部資金獲得のための情報収集や申請書作成支援を実施
- 国際科学広報フェロー(教育研究補助職員)やURAIによる国際科学広報サイトの運営やFacebook、EurekAlert!、AlphaGalileoを用いた研究成果の海外発信を行うなど国際広報体制の強化を実施
- 広島市と広島観光コンベンションビューローとの三者間協定締結や東広島市との連携による国際会議開催をURAIが支援
- 国際研究拠点として広島大学FE・SDGsネットワーク拠点を設置しURAIが運営支援
- ライティングセンターにおいてライティングセミナーや英語論文執筆授業等を開催
- ライティングアドバイザーフェローによる英語論文執筆支援
- 英語論文校正費の助成
- INORMS2020(2020年に広島で開催されるリサーチ・アドミニストレーター団体の世界大会)の開催準備
- クラウドファンディングによる外部資金獲得を検討
- 海外の外部資金獲得のため海外大学とのコネクション強化及び海外動向の把握
- 企業との新たなプロジェクトの立ち上げや推進をURAIが発案・支援するなど、国内外の企業との組織レベルでの連携を本学産学連携部門と連携して推進する
- 産業界・地域自治体と連携した新規プロジェクトの創出
- URAIにより国内外の企業の探索とコネクション作りを行い、URAIが把握する大学の研究シーズと探索した企業のニーズをマッチングすることで、産業界への橋渡しと外部資金獲得につなげる
- 若手教員、女性教員、外国人教員の採用枠を優先確保し、人員配置にはAKPI®・BKPI®等の指標を活用
- テニュアトラック制度の整備
- 若手研究者への研究費支援
- 若手研究者が利用しやすい研究設備の共同利用体制の構築
- 一部の若手研究者にメンターを配置するとともに全学的メンター制度の導入を検討
- 新任教員を対象とした研修プログラムを実施し若手研究者を育成
- 女性研究者の上位職への登用促進及び継続的に活躍できる環境の整備
- 若手研究者の意見を取り組みに反映させるため個別ヒアリングや若手ランチ会を実施
- 風通しのよい研究環境を醸成するため、若手研究者が研究担当理事と1対1で自由に意見交換できる機会となる「オフィス・アワー」を実施
- 研究者に交流の場を提供し学術的研究を創出する良縁創出プロジェクト「広大100人論文」を実施
- 外国人教員等の受け入れ環境整備ワーキングを立ち上げ、研究環境のみならず住環境までサポートできる体制を検討

※ 本事業による取組の効果(他の事業等による影響を受けない)が検証可能である指標

※ 前年度の取組を発展させた繋がりのある取組

広島大学「研究大学強化促進事業」後期ロードマップ

(1) 事業実施計画

| 年度 | | | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | |
|---|-------------------------|--|---|----------------|-------------|------|------|------|--|
| 将来構想 | 事業終了までのアウトカム | 中間的なアウトカム | アウトプット | | | | | | |
| 広島大学の 新長期ビジョン 「SPLENDOR PLAN2017」 に掲げた 『持続可能な発展を導く科学』を 実践する世界的な教育 研究拠点へと発展 | (強化方針02) 国際的学術・融合拠点への進化 | (強化方針01) 高度な IR 機能の活用と優れた URA の育成 | AKPI®と BKPI®によるパフォーマンスのモニタリングによる IR 機能の活用 | | | | | | |
| | | | URA による国際外部資金獲得支援のための国内外 URA ネットワークへの参加と構築 | | | | | | |
| | | | URA の能力向上のためのトレーニングやブレインストーミングの実施 | | | | | | |
| | | | 研究推進機構会議、研究企画会議等に URA も参加し本事業に係る重点事項を審議・検討 | | | | | | |
| | | | IR データを蓄積する教育研究情報収集システム (DWH) と剽窃防止ソフトの運用 | | | | | | |
| | | 指標①: 最先端国際プロジェクトの構築 | | 最先端国際プロジェクトを構築 | | | | | |
| | | 指標②: URA 人事制度の確立 | | | URA 人事制度の確立 | | | | |
| | | (強化方針02-1) 世界的研究拠点の継続的創出 | 国際共同研究プロジェクトや国際共同セミナーを開催し国際研究ネットワークを構築 | | | | | | |
| | | | 拠点の中核を担う国内外トップ研究者の継続雇用 | | | | | | |
| | | | 世界トップ研究者を招聘した「広島大学知のフォーラム」やワークショップ等を開催 | | | | | | |
| 各研究科に設置した研究推進委員会が自発的に研究力強化に取り組めるよう URA が全学の方針やベストプラクティスの共有を行うなどの支援を実施 | | | | | | | | | |
| | | URA による科研費チェックや相談受付など、科研費申請支援を実施 | URA による科研費チェック及び相談受付など科研費申請支援のほか、英語による外国人研究者向けの勉強会や、より上位の研究種目獲得を目指すためのセミナーを実施 | | | | | | |
| | | 自立型拠点・インキュベーション拠点を創出・維持するため URA による大型外部資金獲得のための情報収集や申請書作成支援を実施 | 自立型拠点・インキュベーション拠点を創出・維持するため URA による大型外部資金獲得のための情報収集並びに情報共有を行い、ポイントをわかりやすく解説するセミナー開催及び申請書作成支援を実施 | | | | | | |
| 指標③: 自立型拠点・インキュベーション拠点を継続的に 20 拠点以上を維持 | | | 20 拠点以上 | | | | | | |
| 指標④: 科研費採択率 | | | 30% | | | | | | |
| | | (強化方針04) 国際共同研究を加速させるネットワークの拡充 | 国際科学広報フェロー（教育研究補助職員）や URA による国際科学広報サイトの運営や Facebook、EurekAlert!、AlphaGalileo を用いた研究成果の海外発信を行うなど国際広報体制の強化を実施 | | | | | | |
| | | | 広島市と広島観光コンベンションビューローとの三者間協定締結や東広島市との連携による国際会議開催を URA が支援 | | | | | | |

| | | | | | | |
|---------------------------------|---|--|--|--------------------------|--|--|
| | | 国際研究拠点として広島大学 FE・SDGs ネットワーク拠点を設置し URA が運営支援 | 国際研究拠点として広島大学 FE・SDGs ネットワーク拠点を URA が運営支援し、様々なステークホルダーが参加する国際シンポジウムを開催 | ネットワーク研究拠点の形成と研究者養成機能の付加 | | |
| 指標⑤：海外大学等との包括協定累計件数 | | | | 351 件 | | |
| 指標⑥：FE・SDGs に資する教育研究計画を策定 | | | FE・SDGs に貢献する教育研究計画を策定 | | | |
| (強化方針 04-1) 国際的な存在感の向上 | ライティングセンターにおいてライティングセミナーや英語論文執筆授業等を開催 | | | | | |
| | ライティングアドバイザーフェローによる英語論文執筆支援 | | | | | |
| | 英語論文校正費の助成 | | | | | |
| | INORMS2020 (2020 年に広島で開催されるリサーチ・アドミニストレーター団体の世界大会) の開催準備 | INORMS2020 (2020 年に広島で開催されるリサーチ・アドミニストレーター団体の世界大会) の開催準備と世界各国へのアウトリーチ活動を展開 | INORMS2020 の開催 | | | |
| 指標⑦：ライティングセンターの利用者数 | | | | 1,300 件 | | |
| 指標⑧：INORMS2020 の開催 | | | | INORMS2020 の開催 | | |
| (強化方針 05) グローカルな協働を基盤とした社会連携の推進 | クラウドファンディングによる外部資金獲得を検討 | クラウドファンディングによる外部資金獲得を検討し、新規募集を開始 | クラウドファンディングによる新規外部資金獲得 | | | |
| | 海外の外部資金獲得のため海外大学とのコネクション強化及び海外動向の把握 | | | | | |
| | 企業との新たなプロジェクトの立ち上げや推進を URA が発案・支援するなど、国内外の企業との組織レベルでの連携を本学産学連携部門と連携して推進する | | | | | |
| | 産業界・地域自治体と連携した新規プロジェクトの創出 | 産業界・地域自治体と連携した新規プロジェクトの創出とともに、東広島市と新たな魅力的な都市づくりプロジェクト (DESIGIN-i) を開始 | | | | |
| | URA により国内外の企業の探索とコネクション作りを行い、URA が把握する大学の研究シーズと探索した企業のニーズをマッチングすることで、産 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------------------------|---------------------------------|---|--|--|---------|--|--|--|
| | | 業界への橋渡しと外部資金獲得につなげる | | | | | | |
| | 指標⑨：学術研究と産学連携が協創する組織の設置 | | 学術研究と産学連携が協創する組織の設置 | | | | | |
| | 指標⑩：オープンイノベーション機構の整備 | | オープンイノベーション機構の設置 | | | | | |
| | 指標⑪：共同研究講座・共同研究部門数 | | | | 21講座・部門 | | | |
| | 指標(1)：教員一人当たりSCI論文数 | | | | 1.48報 | | | |
| | 指標(2)：国際共著論文比率 | | | | 38.0% | | | |
| | 指標(3)：企業との共同・受託研究件数（受入額500万円以上） | | | | 54件 | | | |
| （強化方針03）若手研究者等イノベーション研究人材の育成 | （強化方針03-1）若手研究者が研究に専念できる環境の構築 | 若手教員、女性教員、外国人教員の採用枠を優先確保し、人員配置にはAKPI®・BKPI®等の指標を活用 | | | | | | |
| | | テニユアトラック制度の整備 | 若手研究者が活躍できる全学統一の新たなテニユアトラック制度と育成助教（最大3年間の雇用）制度を開始 | | | | | |
| | | 若手研究者への研究費支援 | 若手研究者育成のためのFD研修の充実とFD研修に連動した研究費支援制度の検討 | 若手研究者育成のためのFD研修の充実とFD研修に連動した研究費支援制度の開始 | | | | |
| | | 若手研究者が利用しやすい研究設備の共同利用体制の構築 | | | | | | |
| | | 一部の若手研究者にメンターを配置するとともに全学的メンター制度の導入を検討 | 全学的メンター制度の運用 | | | | | |
| | | 新任教員を対象とした研修プログラムを実施し若手研究者を育成 | | | | | | |
| | | 女性研究者の上位職への登用促進及び継続的に活躍できる環境の整備 | | | | | | |
| | | 若手研究者の意見を取り組みに反映させるため個別ヒアリングや若手ランチ会を実施 | | | | | | |
| | | 風通しのよい研究環境を醸成するため、若手研究者が研究担当理事と1対1で自由に意見交換できる機会となる「オフィス・アワー」を実施 | 研究者に交流の場を提供し学術的研究を創出する良縁創出プロジェクト「広大100人論文」を実施 | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | 外国人教員等の受け入れ環境整備ワーキングを立ち上げ、研究環境のみならず住環境までサポートできる体制を検討 | | | | | |
| | | 指標⑫：若手教員比率 | | | 21.8% | | | |
| | | 指標⑬：女性教員比率 | | | 18.4% | | | |

| | | | | | | | |
|----------------------------------|----------------|--|--|-------|-------|-------|--|
| | 指標⑭：外国人教員等比率 | | | 44.5% | | | |
| | 指標(4)：若手教員比率 | | | | 23.4% | | |
| | 指標(5)：女性教員比率 | | | | | 20.0% | |
| | 指標(6)：外国人教員等比率 | | | | | 50.2% | |
| 指標 I：世界大学ランキングトップ 100 の総合研究大学に躍進 | | | | | | | AKPI® 値 1,000 ポイント を達成し 世界大学 ランキン グト ップ 100 位 以内を 目指す |